

日本 GIF オンラインセミナー
「防災投資：なぜ世界は事前防災にカネを使わないのか？」
実施報告書 概要版

公益財団法人日本グローバル・インフラストラクチャー研究財団

セミナー開催概要

- 主催：公益財団法人日本グローバル・インフラストラクチャー研究財団(日本 GIF)
- 日時：2022年3月30日(水) 14:00～15:30
- 開催形式：Zoom を利用したオンライン形式（ウェビナー）
- 講演者：佐々木 大輔氏（東北大学災害科学国際研究所助教（セミナー実施時））
- 司会者：坂本 晶子（日本 GIF 事務局長）
- プログラム内容：
 - 14:00 開会挨拶 坂本 晶子
 - 14:05 講演 佐々木 大輔氏
 - 14:50 質疑応答
 - 15:30 閉会

開催の趣旨

東日本大震災の発生から 11 年を迎え、被災地では復旧・復興が進み、堤防などまた起こり得る災害の被害を軽減するインフラが多数建設されている。

地震や津波などの自然現象の発生を防ぐことはできないが、被害を軽減するための方策に事前に投資することで、地域住民の命や生活を守り、災害対応や復旧・復興に要する費用をトータルで低減することができる。この「防災投資」という考え方は、世界各地で大規模自然災害が増加している現在、必要性は広く認識されているものの、現状では未だ十分な投資がなされていない。これは、いつ起きるか分からない災害対策への投資よりも、目先の利便性を高めるインフラの整備等への投資の方が有益であるとする見方が根強くあることが一因であると考えられる。

このような状況下で、今後防災投資を推進し、レジリエンスを高めていくためのアプローチについて、東北大学災害科学国際研究所の佐々木大輔助教にご講演いただいた。

講演要旨

2015 年の第 3 回国連防災世界会議で採択された「仙台防災枠組」の 4 つの優先順位のうち、優先順位 3 として、「強靱化に向けた防災への投資」がある。JICA は、「持続可能な開発のための防災への事前投資」を戦略目標として掲げた。国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」には、「持続可能な開発のための防災への事前投資」が含まれている。防災の視点が SDGs のいくつかのゴールに含まれた。「仙台防災枠組」

と SDGs は、密接に関連している。

EU タクソノミーでは、気候変動の緩和、気候変動への適応、水資源及び海洋資源の持続可能な利用と保護などを環境目的として設定しており、この背景には SDGs やパリ協定がある。このような取り組みは、今後も加速していくと思われる。

ISO(国際標準化機構)では、いくつかの国際規格が複数の国から提案されており、現在発行に向けて動いている。防災 ISO を議論するワーキンググループの設置が承認され、今後は防災投資の促進に資する国際規格の発行が期待される。洪水や台風、地滑りなどのハザードは、防災と気候変動適応の共通項であると考えられる。

防災投資における課題は、①統計データ等の定義や推計方法に関するもの、②災害サイクルにおける調和に関するもの、③防災投資の根拠に関するもの、④防災投資における革新的なアプローチとの4つがある。

現在、統計データ等の定義や推計方法が統一されておらず、正確な分析やエビデンスに基づく政策立案が困難である。災害サイクル（応急対応、復旧・復興、防災・減災、事前準備）の調和では、「仙台防災枠組」の優先行動を実践し、事前の防災投資を促進させることが重要となる。災害発生の有無に関わらず生じる便益は、防災投資の根拠となり得るが、算出方法については更なる研究が必要である。また、防災投資における革新的なアプローチとして、新たなファイナンス手法の開発やグリーンインフラの推進等が挙げられる。

質疑応答

統計データの統一、レジリエンスの強化や向上、事前の防災投資のための今後の取り組みについてなどの質疑応答が行われた。

アンケート・感想

参加者に対し、セミナー終了時にアンケートを表示し回答を依頼。セミナーについて知った経緯、セミナーの感想、意見要望等について、貴重なご意見を頂戴した。

以上